

3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
近代史を学ぶ前に	●前近代の日本の歴史について、通史として記述することで、前近代史についての理解を深めるとともに、人々が築きあげてきた社会について、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●「近代史を学ぶ前に」 全て
	●日本の社会や国家の発展が、世界、特に東アジアの国々と関わり合い、影響し合っていることを記述し、生徒が国際社会の一員であることを自覚できるよう意を用いました。(第5号)	●「近代史を学ぶ前に」 全て
序編	●体験的・作業的な学習を行えるよう構成し、歴史の学習を深める考え方を示すことで、生徒が主体的・多角的に現代社会における課題を考察することをめざしました。(第1号、第3号)	●序編全て
	●日本の近代化とアイヌの人々の関わりを扱い、その課程でアイヌの伝統的な生活や産業が変容を迫られたことを記述することで、平等かつ平和的な社会の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性を考察し、これからの社会における課題を思索できるように配慮しました。(第5号)	●序編全て
第1編	●近代の日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第1編全て
	●官民を問わず様々な人々が将来を見据えながら自主的・自律的に改革や運動、学問、勤労に邁進して新時代を築いた様子を、具体的な事例や特に活躍した人物を挙げながら記述しました。(第2号)	●第1編全て
	●民主主義や基本的人権など、自由と平等を尊重する動きが世界に広まり、日本でも社会のあらゆる面において改革が行われた経緯と、今日に至る近代社会の歴史的意義を捉えることができるように配慮しました。(第3号)	●28~29, 36~37, 44~55, 58~71, 76~77, 88 ページ
	●産業の発達にともない、環境汚染や環境破壊が進む一方で、環境保全の意識が芽生えていったことを記述しました。また、産業構造の変化によって、厳しい環境で労働した人々とその環境改善のために行動した人々を取り上げることで、幸福・正義・公正という考察の視点に生徒自らが気付くよう留意しました。(第3号、第4号)	●34~35, 42, 50~51, 84~88 ページ
	●近隣のアジア諸国・ロシアなどとの関係や北海道・沖縄などについても、歴史的な記述になるよう配慮し、国際交流・国際理解を促すことに意を用いました。(第5号)	●28~31, 38~39, 54~57, 59, 69~74, 77~83 ページ
第2編	●大戦期の日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第2編全て
	●戦争が経済、人々の生活や労働に及ぼした影響と、それに人々がどのように対応していったのかを記し、個人の価値を尊重することの大切さ、また、勤労と生活の結び付きを考察できるよう配慮しました。(第2号)	●98~99, 101, 106~107, 118~119, 122, 126, 138~139 ページ
	●この時代に、現代につながる日本の社会の基礎が形成されたこと、また、それらが戦争によって受けた影響を記述し、現代の社会の在り方や社会問題を歴史的な背景から捉え直す契機となるよう配慮しました。(第3号)	●第2編全て
	●世界を巻き込んだ戦争によって、多くの人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを具体的に記述し、生命と自然を尊重する態度を養い、国際平和の重要性について歴史的な観点からも考察できるよう配慮しました。(第4号、第5号)	●96~97, 104~105, 124~125, 127~131, 134~137, 140~143 ページ
	●大戦期に日本が侵攻した地域や占領地域の人々の動向についても丁寧に扱い、国際理解を促すことに意を用いました。(第5号)	●103, 105, 109, 116~117, 124, 135~137, 143 ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第3編	●戦後から現在にいたる日本の歴史について、世界の動向との関わりを踏まえて、その社会の様子や課題、課題に対する取り組みを具体的に記述し、生徒の主体的・多角的な考察を促すことに意を用いました。(第1号)	●第3編全て
	●民主化がはかられるとともに、高度経済成長などを通じて労働や生活状態に変化と向上が見られたこと、また、新たな問題も生まれてきたことを記述しました。(第2号)	●148, 150~151, 161, 168~169, 172~174, 176~177, 179, 183, 186 ページ
	●民主化や差別解消などの実現に向けて、戦後様々な運動や改革が行われてきたことを記し、それらの維持とさらなる発展のために、他者と協力して工夫を重ねることの必要性とその課題について考察できるよう配慮しました。(第3号)	●第3編全て
	●産業の発展や核開発などにより自然環境や人々の健康が脅かされ、それらに対する取り組みや社会運動が行われる一方で、未解決の問題があることも認識できるよう、意を用いました。(第4号)	●166~171, 175, 186~187 ページ
	●これからの国際社会のもつ課題や、また、これからの日本が国際社会において果たすべき役割を生徒が主体的に考察し、国際社会の平和と発展に主体的に関わっていく自覚と責任をもつ契機となるよう、配慮しました。(第5号)	●第3編全て

4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 豊富な資料と取り組みやすい紙面

- ▶本文を具体的に裏付ける資料として、写真・模式図・文字史料・統計資料などの活用をはかりました。また、これらの図版のもつ学習効果をより有効にする必要性から、判型をB5判とし、全編をカラー印刷としました。
- ▶ユニバーサルデザインに配慮し、できる限り多くの生徒にとって読み取りやすい教科書となるよう意を用いました。ユニバーサルデザイン・フォント、カラーユニバーサルデザインを考慮した配色を、全編を通じて取り入れました。
- ▶編や章ごとに色分けを行い、各ページにはその色を配し、柱にも章や節の名称を入れることで、生徒が自分の学習している箇所が明確になるよう工夫しました。
- ▶付録として「年表」「歴代内閣総理大臣」、後見返しに「おもな政党の変遷」を付し、学習の助けとしました。

② 生徒の理解を助ける本文記述

- ▶本文はつとめて平易・簡明としながら、重要なポイントは確実におさえられるようにしました。難読と思われる語句に関しては、原則として見開きの初出にふりがなをつけました。また、本文の記述に際しては、重要な語句にはゴシック体を用いて学習上の注意を喚起しました。
- ▶歴史上の人物については、本文初出の箇所に生没年または在位年を付記し、学習の助けとしました。
- ▶本文とは別に、「側注」「用語解説」を設け、本文の文章を損なわないよう、補足事項や具体例を掲載しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※ 受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-160	高等学校	地理歴史科	日本史A	
※ 発行者の 番号・略号	※ 教科書の 記号・番号	※ 教科書名		
清水 35	日 A 310	高等学校 日本史A 新訂版		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 「今」につながる歴史を学び、歴史学習を「今」に生かす ●●●●●●●●●●

▶ 各テーマに「導入の問いかけ」と、まとめとしての「学習を深める問いかけ」を設定し、各テーマの学習の目標を明確に提示して、学習の意義を理解するとともに、「問いかけ」に取り組むことで、歴史と現代社会との関わり、現代社会の課題についての歴史的な背景、課題解決のための方策などを考察することをめざしています。

▼ p.94～95

「大正デモクラシーとは、どのような風潮なのだろうか。」



「民主主義と現在の民主主義を比較して、違いを考えてみよう。」

▶ 本文記述は、各テーマを時系列で整理しています。テーマを追っていくことで、各時代の流れや前後の時代との関連を理解しやすい構成をとっています。また、各項を2～3ページにまとめ、画一的なページ数としないことで、過不足なく各テーマの事象の展開や因果関係を理解できるよう配慮しています。

③ 生徒の主体的な歴史学習・探求・表現活動を促す

▶各項の本文は、項のテーマに沿って記述を整理しています。本文の文脈に含めにくい内容は、側注や用語解説を設けて掲載し、生徒が歴史についての理解を主体的に深められるよう工夫しています。

*無産党

立憲政友会のような旧来の政党に対し、農民や労働者の利益を代表する合法的な社会主義政党のことで、労働農民党などがこれにあたる。

▶ p.108 (用語解説)

▶多彩なコラムと特設ページ（もっと知りたい日本史）を用意し、当時の人々や社会のようすを示すことで、生徒の興味・関心を高め、日本や世界の政治・経済・文化などさまざまなものが影響し合っただけで社会が形成されていることに気づき、歴史学習によって単に知識を習得するのではなく、歴史学習を通じて、主体的にこれからの社会について思考・表現する力を養うことをめざしています。

▼ p.149

日本史

敗戦と文化財流出

なぜ海外の美術館や博物館が、日本の美術品を多く所蔵しているのだろうか？

戦後、明治維新には、日本で価値の下がった浮世絵や仏像などが大量に西洋社会に流れ出した。1929（昭和4）年に文化財保護法に改定された「国宝保存法」が公布されたが、戦後の社会混乱によって、ふたたび国外へ流出していった。

戦前に、GHQ 民間情報教育館の美術記念館は、日本国内の古美術や宝物を調査した。調査を終ったハーワード・ホリスやシャーマン・リーは、強制的に取り立てた美術品の処分を監督し、市場に出たコレクションを調査した。彼らが購入した美術品は、グリーンランド美術館やシアトル美術館のコレクションに入った。

アメリカ人の日本美術品への興味や収集は、第二次世界大戦が転機点になったと言われている。戦争中、日本語や日本文化に関する知識は、アメリカ政府にとって貴重なものであった。そのため、日本文化の研究がおこなわれたのだ。

1950年、『文化財保護法』が施行された。その目的は、文化財の保存・活用と国民の文化的向上である。

戦後の大連で、日本人の命を奪ったのは日本船だった。どういったことか？

日本美術品の移動先はアメリカだけではなく、旧満洲大連市の無工會議所会館であった。この会館は、財界人であり、美術収集家でもあり、若い芸術家の後援者でもあった。

敗戦後、各国民を救済するため、首飾は美術コレクションの中から浮世絵や日本画 560 点あまりを選び出し、ソ連軍司令部に引き渡した。その代わりとして約 100 トンをもらい受け、古美術に売った日本人を救った。

「西蔵定コレクション」とよばれる作品群は、長い間ロシア国立東洋美術館に保管されていた。2000（平成 12）年に 120 点あまりの運び屋が現れ、長い歳月を経て、歴史の前に封印されていた作品が公開された。

海外の美術館やコレクターが所蔵する日本の絵画や工芸などの文化財が、一時的に日本に帰って国内を巡回する展覧会を、しばしば「宝庫展」とよぶ。文化財の流出を、損失とみなすが、その対価として得たものを利益とみなすか。美術品の移動は、国際関係の重要な一つの側面である。流出を一つの文化交流とみるならば、美術品が戦後日本の外交に果たした役割は大きい。

日韓漁業交渉（江戸時代中期、宮川長春作、ロシア国立東洋美術館蔵）

日韓漁業交渉（1890～1950）大分県上野の美術家で大連を中心に活躍した。

伊波普猷（1876～1947）

那覇に生まれ、近代教育をうけた沖縄の最初の世代の人物。伊波は、沖縄の言語文化が日本本土との共通性をもつとしつつ、同時にその独自の価値を認め、沖縄文化の探究を続けた。戦後直後に発表した本で、彼は「地球上で帝国主義が終わりを告げる時、沖縄人は「にが世」（不幸な時代）から解放されて「あま世」（幸福な時代）を楽しみ十分に個性を生かして、世界の文化に貢献できる」と記している。

149

▼ p.108



伊波普猷(1876～1947)

那覇に生まれ、近代教育をうけた沖縄の最初の世代の人物。伊波は、沖縄の言語文化が日本本土との共通性をもつとしつつ、同時にその独自の価値を認め、沖縄文化の探究を続けた。戦後直後に発表した本で、彼は「地球上で帝国主義が終わりを告げる時、沖縄人は「にが世」（不幸な時代）から解放されて「あま世」（幸福な時代）を楽しみ十分に個性を生かして、世界の文化に貢献できる」と記している。

▼ p.54

最初の女子留学生—津田梅子—

津田梅子（1864～1929）が女子留学生として米国へ出発したのは1871（明治4）年末。5人の少女のなかで最年少の梅子は、まだ7歳であった。出発時には一言も英語を話せなかった彼女も、2年もすると作文や日本への手紙も英語で書くようになり、自分から進んでキリスト教の洗礼をうけるなど、アメリカの生活にすっかりとけこんで成長した。10年あまりの留学を終え帰国した梅子は、アメリカでの育ての親ともいうべきランメン夫妻に宛てて英文で、次のように書き送っている。

「私の家は日本ではかなり西欧風なのですが、ここですら、アメリカ風なやり方は奇妙な眼で見られます。……女性は男性より遥かに人生の辛い部分を背負っています。気の毒な、可哀そうな女性！」

女子留学生 アメリカ、シカゴで撮影されたもの。写真右端は山川捨松で、そのひざの上にいるのが津田梅子。

異文化体験にとまどい、10年のあいだにまったく忘れてしまった日本語の再学習に苦しみつつも、梅子は女性の未来を切り開こうとする情熱をもち続けた。梅子が日本の女性たちにもっとも必要と感じたのは高等教育であった。帰国後18年を経て、梅子は女子英学塾（いまの津田塾大学）を1900年10月に開校し、その後も女子教育に生涯をささげた。

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
近代史を学ぶ前に	(1) 私たちの時代と歴史	5～18ページ	(3)
序 編 私たちの時代と歴史	(1) 私たちの時代と歴史	19～25ページ	1
第1編 近代の日本と世界			
第1章 国際環境の変化と幕藩体制の動揺	(2) 近代の日本と世界 ア	28～37ページ	5
第2章 明治維新と近代国家の形成	(2) 近代の日本と世界 ア	38～59ページ	11
第3章 立憲政体の成立と国際的地位の向上	(2) 近代の日本と世界 ア	60～91ページ	12
もっと知りたい日本史 台風 —忘れられつつある自然被害—	(2) 近代の日本と世界 ア	75ページ	0.5
第2編 大戦期の世界と日本			
第1章 第一次世界大戦と日本	(2) 近代の日本と世界 イ	94～113ページ	9
もっと知りたい日本史 関東大震災 —犠牲者と慰霊碑—	(2) 近代の日本と世界 イ	109ページ	0.5
近代の追究① 近代日本の住環境	(2) 近代の日本と世界 ウ	114～115ページ	1
近代の追究② 大日本帝国をめぐる人口移動	(2) 近代の日本と世界 ウ	116～117ページ	1
第2章 第二次世界大戦と日本	(2) 近代の日本と世界 イ	118～143ページ	10
もっと知りたい日本史 終わらない戦争	(2) 近代の日本と世界 イ	143ページ	0.5
第3編 現代の世界と日本			
第1章 戦後政治の動向と国際社会	(3) 現代の日本と世界 ア	146～163ページ	6
もっと知りたい日本史 敗戦と文化財流出	(3) 現代の日本と世界 ア	149ページ	0.5
第2章 経済の発展と国民生活の変化	(3) 現代の日本と世界 イ	164～177ページ	6
もっと知りたい日本史 東日本大震災の 記録を後世へ伝える	(3) 現代の日本と世界 イ	175ページ	0.5
第3章 現代の日本と世界	(3) 現代の日本と世界 イ	178～187ページ	3
近代の追究③ 地域社会の変化 —市町村合併の歴史	(2) 近代の日本と世界 ウ	188～189ページ	1
現代からの探究 沖縄の基地問題と私たちの課題	(3) 現代の日本と世界 ウ	190～193ページ	1.5
		計	70(73)